

中日邦交正常化30周年紀念

中日交流硯作集

山本濤石



胡中泰 山本濤石 主編

● 山東教育出版社



中日邦交正常化30周年紀念

中日交流硯作集

山本濤石



胡中泰 山本濤石 主編



山東教育出版社

中日交流硯作集

顧問 郭海棠(中國文房四寶協會會長)

監修 蔡鴻茹(中國著名古硯鑒賞家)

主編 胡中泰 山本濤石

編委 (以姓氏筆畫為序)

山本粹園 永井櫻舟 吉田永欽

胡鋼泰 劉克唐 劉演良

譯文作者 馮樹龍 石澤毅 王學文

攝影(写真) 藝術新聞社 小峰浩 永井櫻舟 米山石峯

山本粹園 神藏翠甫他

責任編輯 劉進軍

版式設計 王玉平

封面設計 呂祥琪

出書單位 日中旅游學會 中國文房四寶協會

出版單位 山東教育出版社

發(發)行單位 山東教育出版社 日中旅游學會



胡中泰 男, 1954 年生, 江西婺源人。高級工藝美術師, 龍尾硯研究所所長, 江西省工藝美術大師, 江西省政協委員, 中國文房四寶協會顧問, 中國工藝美術學會會員, 江西省美術家協會、書法家協會會員。

從事硯的設計、雕刻和研究工作 20 多年。硯刻作品“熔書畫、金石與雕刻為一爐, 形成了自己獨特的藝術風格(《江西日報》周國楨評)”。其作品在全國、全省工藝美術大賽中多次獲獎, 被選作國家禮品、被海內外人士收藏。專業論文在海內外省級以上書報刊中發表十多篇, 主編《中國名硯鑒賞》(與人合作), 編著《中華文房》、《龍尾硯》等專業書籍。

中央電視臺、香港鳳凰衛視、江西省電視臺、《人民日報》、《美國僑報》、《中國文化報》、《江西日報》等對其人、其藝均作過專題報道。

胡中泰 男, 1954 年, 江西省婺源に生まれ, 高級工藝美術師, 龍尾硯研究所所長, 江西省工藝美術大師, 江西省政治協商會議委員, 中国文房四宝協會顧問, 中国工藝美術学会會員, 江西省美術家協會、書道家協會會員。20 余年にわたり硯の設計、彫刻と研究に専念、作硯の作品は“書画、金石、彫刻技法を一体としたもので、独特な趣が見られる(『江西日報』周国楨評)。”国と省の工藝美術コンクールで数回にわたって受賞し、国の指定文化財として外国首脳に贈られている。またコレクションとして国内外の収集家に収集されている。作硯についての論文は十余篇国内外の専門誌、新聞に発表し、主な著書は『中国名硯鑑賞』(共著)、『中華文房』、『龍尾硯』などがある。

中国中央テレビ局、ホンコン鳳凰衛星放送テレビ、江西省テレビ、《人民日報》、《アメリカ華僑日報》、《中国文化報》《江西日報》などにその人とその芸術について報道されたことがある。



山本濤石 男, 1947 年富山県に生まれ, 大東文化大学中国文学部卒, 日中旅游学会会長。日中書作硯研究所所長, 日本教育書道連盟教授。審査員, 清逸書道会会長, 日本書道学会理事, 書道教育士, 書学, 書道史学会員, 武南高等学校教諭。1986 年, 全国臨書模刻展開催以後 11 回展まで運営委員、審査員, 1993 年, 上海書法家協会成立三十周年紀念展出品、揮毫交流代表, 1995 年, 産経国際書展、審査員, 1996 年, “日中シルクロート”書展西安碑林博物館海外部訪中事務局長など歴任された。

1997 年“カーウ、中国名硯探訪の旅”を始められて, 6 年間に互り書、作硯に専心し専門的な論文を数多く『墨』に発表された。『中国紀行』を編集し, 25 回も“日中友好文化交流”を主旨とする訪中活動を実施された

山本濤石 男, 1947 年生于富山縣, 畢業于大東文化大學中國文學部。日中旅游學會會長, 日中書法、製硯研究所所長, 日本教育書法聯盟教授、審査員, 清逸書法會會長, 日本書法學會理事、書法教育士, 書法學、書法史學會會員, 武南高等學校教諭。自 1986 年舉辦全國臨書模刻展始至 11 屆連任此展經營委員、審查委員, 1993 年參加上海書法家協會成立 30 周年紀念展, 作為日方代表除提供展品外并即席揮毫表演; 1995 年任産経國際書法展審查員; 1996 年, 西安碑林博物館舉辦“日中絲綢之路書法展”時任訪華團秘書長。

自 1997 年開始“中國名硯探訪之旅”之后, 6 年來, 專心研究書法和硯刻, 多次在雜誌《墨》上發表專業論文, 同時主編《中國紀行》, 曾 25 次以“日中友好文化交流”為宗旨, 訪問中國。

序

蔡鴻茹

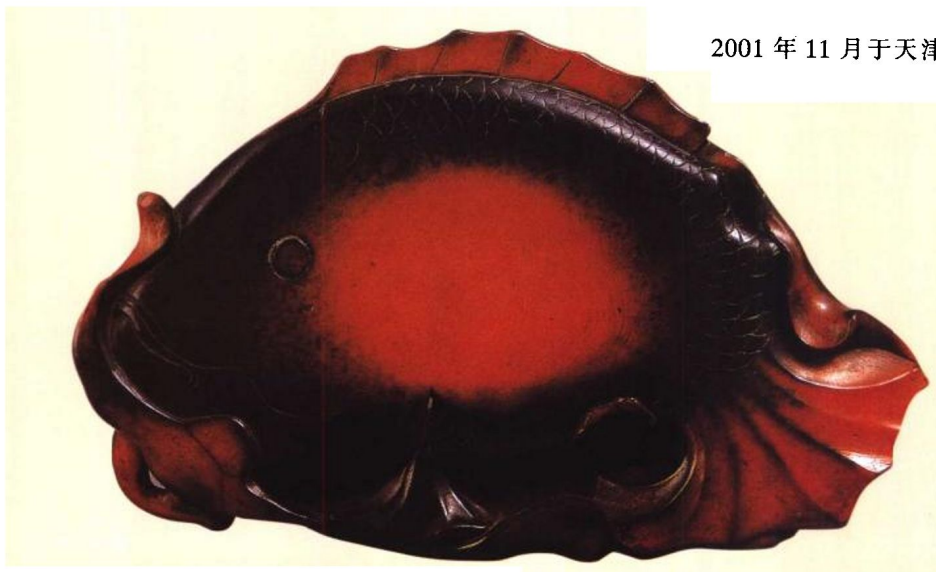
仲春之即，生機盎然。為了慶祝中日邦交正常化 30 周年，由日中旅遊學會主辦的《中日交流硯作·書展》于 2002 年 5 月上旬在中國首都北京神聖雄偉的中華世紀壇隆重揭幕。展覽將展出諸多中日書法家、製硯家的作品，中日兩國藝術家共襄足舉；書作、硯作匯聚一堂，誠為中日兩國文化交流史上的盛事。它不僅為 30 周年慶典增輝，也為增進中日兩國書藝、硯藝的交流起到了巨大的推動作用。

以山本濤石、山本粹園二位先生為首的“日中旅遊學會”，多年來致力於中日書藝、硯藝的交流與創作，在過去十餘年中訪華 25 次，以“日中友好文化交流”為宗旨，進行探訪和考察，并于 1996 年在中國西安碑林博物館舉辦了“日中絲綢之路書展”。由 1997 年又開展了以考察中國名硯產區的“中國名硯探訪之旅”，到中國的博物館觀賞古代珍品，深入端硯、歙硯、洮河硯、松花石硯、魯硯等硯材產地進行實地考察，尋根探源，跋山涉水，行程萬里，歷盡艱辛，取得豐碩成果，寫出具有學術價值的探訪記。不僅如此，還運用刀筆，衷情于硯刻藝術，展覽中所展示的作品，就是藝術家們的辛勤創作的成果。

為了記錄這次展覽盛典，弘揚互相學習、探索的精神，留下永恒的紀念，在展覽舉辦的同時，將展品中的部分硯臺編輯出版《中日交流硯作集》，該書中收錄了參展的中日兩國製硯藝術家的作品以及“日中旅遊學會”多次到中國硯材產地的探訪記。

硯，是中國傳統的書寫用具，亦是東方文化瑰寶，它以悠久的歷史，獨特的藝術魅力，優美的雕刻，豐富的文化內涵，吸引着無數書畫家及衷情者。中日兩國文化背景向來就有諸多相同之處，兩國的製硯工藝亦有諸多共同特徵，硯臺已成為溝通文化、聯絡感情的紐帶。本集所收錄的中日兩國硯雕作品，融傳統與創新、實用與藝術、自然與雕琢于一體，材質優異，雕刻精湛、神韻獨特、各具風姿、競放異彩。而探訪記則記錄了實地考察的足跡，是具有學術性、科學性、真實性的重要資料。方方硯作閃耀着藝術的光彩，篇篇論文昭示着研究成果。《中日交流硯作集》的出版，無疑是中日兩國製硯家藝術交流的結晶，是藝林的盛事，它將永遠載入硯文化發展史冊。

祝願以中日兩國硯刻藝術家的展覽及《硯作集》的出版為契機，攜手共進，在新世紀裏共同譜寫硯文化的新篇章。



2001 年 11 月于天津市藝術博物館

明代荷魚硯砂澄泥硯（蔡鴻茹鑒定）

原為天津文物收藏家徐世章收藏，后捐獻給天津市藝術博物館

序

卷二

春たけなわの、万物生氣に溢れる季節となりました。

この度、中日日中国交正常化 30 周年記念祝賀のため、日中旅游学会主催の“日中作硯・書道作品交流展”が、2002 年 5 月上旬に神聖かつ雄大な“中華世紀壇”において、盛大に開幕されます。この展覧会は、中日の書道家・作硯家の作品が数多く展示されます。

このように、中日両国の芸術家が手を携えて、これらの作品を一堂に披露させられたのは、中日両国の文化交流において、誠にめでたいことであります。

このことは、単に 30 周年祝賀に輝きを増すだけではなく、中日両国の書道、作硯芸術交流への促進にも大いなる役割を果たせることと存じ上げます。

山本濤石・山本粹園両先生を始めとする日中旅游学会は、長年来中日の書道・作硯芸術の交流に尽力され、過去十数年にわたって、25 回も“日中友好文化交流”を主旨とした訪中活動と、探訪の旅の調査を実施されました。去る 1996 年には、中国の西安碑林博物館において、“日中シルクロード書展”を開催されました。また、1997 年からは、中国の名硯産地の歴訪を目的とする“中国名硯探訪の旅”を始められたのであります。ご一行は、中国各地の博物館の古代珍硯を鑑賞されたり、更には海を渡り、山を越え、万里を遠しとせず、艱難辛苦をなめ尽くして、端溪硯、歙硯、洮河硯、松花石硯、魯硯などの硯の産地を実施考察され、その源を探求して、多大な成果を収められ、学術的にも価値ある探訪の報告文を発表されました。更には自らの手で、硯の彫刻にも精根を打ち込まれました。まさにこの展覧会に出品・展示された作品は、ご一同の創作成果なのであります。

永遠の記念として、この度の展覧会の成果を記すために、相互学習並びに探訪の精神を更に深めるために、展示された作硯作品を『日中交流硯作集』に収録して本書が出版されたわけであります。本書には、中日両国の作硯芸術家の作品の外、日中旅游学会の過去 6 年間にわたる数十回の中国硯産地への探訪文をも収録したものであります。

硯は、中国の伝統的な文房四宝の一つであり、また東洋文化の珍宝でもあります。その悠久な歴史と独自の芸術魅力、優美な彫刻と豊富な文化的内容を以って、画家・書家および愛玩家を限りなく引き付けてきました。

中日両国の文化的背景は、昔から多くの共通点を持っており、両国の作硯芸術にも共通な特徴が少なからず示されています。硯は、かつて文化交流の使者となり友情を深める絆となっていました。本書に収録された中日両国の硯作品は、すべて上質の硯石であり、彫刻が巧みなうえ、伝統工芸に実用的な新発想を取り入れられ、彫琢を極めながらも自然美を失わず、それぞれ風格が異なり、独自の趣を持ち、異彩を放っています。

又、踏査の足跡を記した探訪文は、どれも学術的・科学的・実証的な重要資料となっていると思われます。

これらの作硯作品は、一面一面光彩を放ち、収録した論文はそれぞれの研究成果を物語っています。

この『日中交流硯作集』の出版は、紛れもなく中日両国作硯家の芸術交流の結晶であり、作硯分野の貴重な資料として、後世永遠に硯文化発展史に残されるでしょう。

中日両国の作硯家が、この度の展覧会と作品集の出版を契機に、更に共に手を携えて、21 世紀に硯文化の新しい 1 ページを開かれるよう祈念申し上げます。

2002 年 1 月于天津市藝術博物館

硯 緣

——出版致詞

胡中泰

1997年春，我與山本濤石先生在婺源相識。1998年冬，山本先生再度來婺源，對歙硯的產地龍尾山作實地造訪，我們再次面晤，談硯文化，談當代硯的發展，彼此之間產生了許多共識。

山本先生和同行的硯友們還對端硯、洮河硯、澄泥硯、魯硯、松花江硯等產地作了實地探訪，并撰文作記。作為同行，我為他們的這種敬業精神所感動，也為他們探訪後的收穫而祝賀！

今年初，我應山本先生之邀，與他一道籌辦首屆“中日硯刻作品展”和主編《中日交流硯作集》。這雖然是初次的嘗試，但對於促進中日兩國人民的友好往來，增進友誼，對於弘揚中國的硯文化，促進中日硯界同行的相互了解和藝術交流，都是一件十分有益的事情。因此，我愉快地接受了山本先生的邀請，并積極地投入到此項工作之中。如果我能為中日首屆硯刻作品展和作品集的成功展出和出版，獻上一點綿薄之力，則深感欣慰。

《中日交流硯作集》分圖文兩部分。圖錄收集了中日兩國當代部分知名硯雕家的作品，雖然受篇幅限制未能收入更多，但從已收入的作品來看，無論是硯種，還是硯雕藝術風格，都已具有較廣泛的代表性。文字主要是日本硯友對中國名硯的探訪文章和日本硯的介紹文章。中國是硯的故鄉，硯的歷史悠久，源遠流長。從古到今，中國有關硯的著述已不為少見，而日本硯友作為外國人寫中國硯，并集多篇于一書之中，乃此書之一大特色也。

正值中日邦交正常化30周年之際，首部《中日交流硯作集》的出版，可謂是兩國硯界同仁獻給中日邦交正常化30周年的一份賀禮。在為此書的出版致詞之際，首先要感謝該書出版的發起者山本濤石先生和他的夫人山本粹園女士，要感謝日中旅游學會的鼎力相助；要感謝中國文房四寶協會的積極參與；要感謝山東教育出版社和各位硯友、各位翻譯的大力支持！

由于編者水平有限和時間倉促之故，書中缺點，甚至謬誤定然有之，在此，懇請專家讀者，予以匡正。

2002年1月于婺源縣龍尾硯研究所



魚化硯 27×12×2(cm)

胡中泰作

硯 緣

——出版御挨拶

胡中泰

1997年春、私は婺源で山本濤石先生と初めて出会いましたが、更に1998年冬、山本先生は歙州硯の産地龍尾山を実施調査するため、再び婺源に来訪された時、再会し、硯文化・現代硯の発展について種々意見を交わして、硯文化に対しての共通の認識を持つようになりました。

山本先生と日中旅游学会愛硯家の一行は、中国各地の、端溪硯・澄泥硯・魯硯・松花石硯等の産地を探訪され、かつ丹念に記録した論文を書き表されました。硯という同一分野の研究者として、私は、先生のこのような仕事に精魂を傾ける精神に感動しましたと同時に、その調査の成功にも祝賀の意を申し上げる次第であります。

2001年当初、山本先生から第一回『中日交流硯作集』の編集と、第一回中日国交正常化30周年記念展開催の準備の要請があった。両国いずれも初めての試みでありましたが、しかし、これは中日両国人民の友好往来を促進し、その友情を深めるということにおいても、また、中国の硯文化を広め、中日両国の硯研究者の相互理解と芸術交流を促すうえにおいても、極めて有意義なことと考え、そこで、私は山本先生のご要請を快く引き受け、積極的にその準備に身を入れ始めました。この中日両国のいずれにおいても初めての作硯作品展の開催と、その作品集の出版に、些かでも微力を尽くせば、このうえもなく幸甚なことだと思った次第であります。

この第一回中日交流硯作集は、作品写真と中日両国の硯石探訪の旅と調査の記録文からなっています。作品写真としては、目下、中日両国の名高い作硯家の作品を収録しました。しかし、紙面の関係上、割愛せざるをえないものが数多くありましたが、ここに選出された代表作品は、硯の種類においても、その彫刻風格においても、代表性を持っていると思います。また、探訪文としては、主に日中旅游学会の愛硯家が中国名硯についての探訪文と、和硯についての紹介文を掲載しました。

また、中国は硯の故郷であり、その歴史は彩られ、また悠久な流れを持っており、古今にわたって硯に関する著述は数多くに現れていたが、日本の友人が外国人として中国硯を研究し、そしてその研究文章を極めて多く収録できたのは、本書の大きな特徴と言えるでしょう。

ここに中日国交正常化30周年記念に当たって、第一回『中日交流硯作集』が出版できたのは、まさに両国硯研究者への祝賀の賜であります。本書の挨拶文に際して、まず、発起人である山本濤石先生および奥様山本粹園先生に感謝の意を表したいです。また日中旅游学会の役員の方々の多大なご支援、中国文房四宝協会の積極的な参与、さらには山東教育出版社と諸硯友ならびに翻訳に携わっていただいた皆様にも、心から厚く御礼を申し上げます。

編者は、浅学非才なうえ、時間に迫られたため、本書には不足な点及び誤謬があるに違いないと存じますが、その点については、諸大家のご批正をお願い申し上げます。

2002年1月於中国婺源县龍尾硯研究所にて

御挨拶

山本 涛石

壮大で、悠久の歴史をもつ中国。

本日、ここに東洋随一の“中華世紀壇”において、日中国交正常化 30 周年を記念して“日中作硯・書作品交流展”、並びに記念として、『日中交流硯作集』を発刊できましたことは、この上もない光栄に存じあげます。

書と硯を追求する者にとって、中国大陸はその原点であり、ふるさとでもあります。

また、日中両国は、一衣帯水の国であり、人々に愛され、親しまれてきた伝統文化・芸術を共有してまいりました。

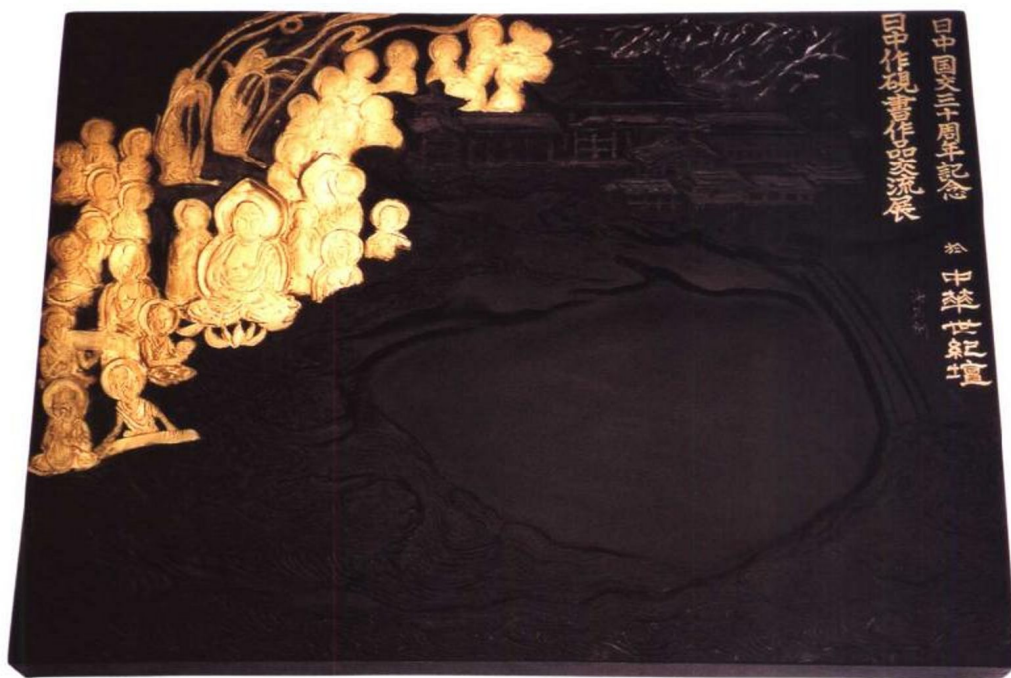
この度の展覧会と『日中交流硯作集』は、日中旅游学会の過去 10 年間に互る“書・硯探訪の旅”の集大成とも言えるべきものであります。幸いにして、これまでの硯石探訪は、中国硯鑑定家の蔡鴻茹先生、中国工芸美術大師の先生方等、さらには、日本長野県工芸会会長深澤淡齋先生等、両国の多くの人々のご教導とご高配によって友好を深められた金字塔でありまして、誠に意義深いものであります。

こうした硯石を求める心の交流が、日中国交正常化 30 周年記念『日中横におくる交流硯作集』を発刊する事になったことに、何か不思議な縁というものを感じざるを得ません。また、こうして歴史上初めての作硯・書の交流展覧会によって、両国の文化交流に、新たな一章を書き加えられたことは、真に喜ばしい限りであります。

この展覧会の交流を通じて、さらに日中の友好の心の輪が深め、広められ、書・作硯の発展と振興に些かでも寄与出来ますことを祈念してやみません。

末筆になりましたが、ご出品いただきました全ての先生方に対して、ここに改めて厚く御礼申し上げます。そして、関係下さった方々の大きな飛躍の年となりますことを祈念して、感謝の意を込めてごあいさつの言葉といたします。

2002 年 5 月 1 日



阿彌陀如來迎硯 45 × 60 × 3(cm)

山本涛石作

致 詞

山本清石

中國有着偉大而悠久的歷史。

為紀念日中邦交正常化 30 周年，這次能在亞洲最大的中華世紀壇藝術館舉辦“中日硯刻、書法作品交流展”並出版發行《中日交流硯作集》，深感無上光榮。

對於書、硯的追求者來說，中國大陸既是他們的起點，也是他們故鄉。

日中兩國是一衣帶水的鄰國，共同擁有人們所喜愛、熟悉的傳統文化和藝術。

本次展覽的舉辦以及《中日交流硯作集》的出版，可以說是日中旅遊學會過去 10 年間進行“書、硯探訪之旅”的集大成之作。值得慶幸的是，迄今的硯石探訪活動由於得到了中國硯鑒定家蔡鴻茹先生、中國的諸位工藝美術大師們、更有日本長野工藝會會長深澤淡齊先生等兩國的許多大師賜教與關懷，而築造起一座加深友誼的金字塔。實感事孤而意深。

從最初追求硯石精品，進行內心世界的交流得以發展到今天出版《中日交流硯作集》來紀念日中邦交正常化 30 周年，不能不令人感到是不思議的緣分。加之，歷史上首次舉辦的“日中硯刻、書法作品交流展”必將為兩國的文化交流增添新的篇章，真是令人倍加振奮。

衷心希望通過此次展覽和交流，擴大並加深日中兩國之間的友好，並對書法、刻硯的發展與振興盡上綿薄之力。

最後，謹向為此次展覽提供作品的諸位先生深致謝意，並祝有關各位今年取得巨大進步。

2002 年 5 月 1 日

目 錄

序	蔡鴻茹 (1)
硯緣——出版致詞(出版御挨拶)	胡中泰 (3)
致詞(御挨拶)	山本濤石 (5)
圖版——名硯作品(作硯集)	
中國名硯作品	
端溪硯	
水繞山迴石路深硯	劉演良 (2)
肇慶星岩碑刻硯	劉演良 (3)
武當南岩硯	劉演良 (4)
歙州硯	
石鼓硯	胡中泰 (5)
春雨硯	胡中泰 (6)
飛天硯	胡中泰 (7)
赤壁懷古硯	甘而可 (8)
四水迴歸硯	甘而可 (9)
長方回紋壽字硯	甘而可 (10)
洮河硯	
蘭亭序硯	劉愛軍 (11)
劉伶醉酒硯	劉愛軍 (12)
童趣硯	劉愛軍 (13)
魯硯	
化石硯	劉克唐 (14)
山水硯	劉克唐 (15)
秦泰山刻石硯山	劉克唐 (16)
隕石坑硯	姜書璞 (17)
冬林小景硯	姜書璞 (18)
石幽硯	姜書璞 (19)
松花硯	
龍戲珠硯	張國江設計、姜兆春雕刻 (20)
八駿硯	張國江設計、劉元祥雕刻 (21)
松鶴硯	張國江設計、田明巍雕刻 (22)
澄泥硯	
三友硯	蘭永茂、蘭 濤 (23)
海天浴日硯	蘭永茂、蘭 濤 (24)
雙螭硯	蘭永茂、蘭 濤 (25)
樹根硯	龔 展 (26)
駿馬硯	龔 展 (27)
逍遙游硯	龔 展 (28)
長方刻銘漢碑漢印端硯	張得一 (29)

長方刻銘行楷陶淵明詩端硯	張得一(30)
長方刻銘金文印鑒端硯	張得一(31)
蘭亭硯	李鐵民(32)
猿面硯	李鐵民(33)
佛手硯	李鐵民(34)

日本名硯作品

赤間硯

瓜形硯	下井昭竜山(36)
兜硯	下井昭竜山(37)
流水硯	下井昭竜山(38)

竜(龍)溪(溪)硯

鍋倉竜(龍)溪(溪)直(直)稜硯	深澤淡齋(39)
鍋倉水岩流紋硯	深澤淡齋(40)
鍋倉水岩流紋硯	深澤淡齋(41)
鍋倉竜(龍)溪(溪)風字硯	深澤秀石(42)
鍋倉竜(龍)溪(溪)玉様硯	深澤秀石(43)
鍋倉漆象嵌回池硯	深澤秀石(44)

鳳來寺硯

軟池硯	名倉利幸(45)
緩陵風池硯	名倉利幸(46)
無陵硯	名倉利幸(47)

紫雲硯

和	熊谷瑞泉(48)
猿面硯	熊谷瑞泉(49)
川明り(川明)	熊谷瑞泉(50)

鳳凰硯	山本粹園(51)
源氏物語硯	山本粹園(52)
洮河花卉硯	山本粹園(53)
蓬萊硯	山本濤石(54)
甲骨文硯	山本濤石(55)
金文鐘様硯	山本濤石(56)

文論——硯論及名硯石探訪・調査・考證

中國編

端溪硯

端硯(端溪硯)	劉演良(58)
四大名硯第一“端溪硯探訪の旅と調査”(四大名硯之首端硯探訪之旅 及調査)	米山石峯(85)

歙州硯

解説歙硯(歙硯の解説)	胡中泰(94)
歙州硯石探訪の旅	

——歙州硯石の坑道・坑口発見——	山本濤石(103)
(歙州硯石探訪之旅	
——歙州硯石的坑道、坑口之發現)	
洮河硯	
幻の“洮河綠石”初探訪の旅	
——宋・明代坑洞窟調査新発見——	山本濤石、山本粹園(117)
(神秘的“洮河綠石”首次探訪之旅	
——宋・明代坑口之調査及新發現)	
魯硯	
山東省“魯硯石”探訪の旅と調査	
——徐公石、尼山石、燕子石、淄石、龜石、紅絲石などの採石場調査——	
.....	劉克唐、山本濤石(監修)(131)
(山東省“魯硯石”探訪及調査	
——徐公石、尼山石、燕子石、淄石、龜石、紅絲石等采石場之調査)	
[徐公石、金星石;神藏翠甫;尼山石、燕子石;永井櫻舟;淄石(金星石、金雀石);吉田永欽;龜石;永井櫻舟;紅絲石、舊紅絲石、砣磯島石;米山石峯;田横石;神藏翠甫]	
松花硯	
松花硯石探訪の旅	
——松花石の調査及び洮河綠石との比較——	
.....	山本濤石、山本粹園(152)
(松花硯石探訪之旅	
——松花石的調査及與洮河綠石的比較)	
澄泥硯	
澄泥硯石探訪の旅(澄泥硯石探訪之旅)	神藏翠甫(166)
中國硯石分布圖	(173)
日本編	
和硯	
——倭の書を育み支えるもの——	永井櫻舟(174)
(和硯	
——撫育日本書法之母)	
日本硯石探訪及調査	
赤間石	永井櫻舟(178)
“龍溪硯石”翠岩洞探訪記	
——稀代の発見鍋倉水岩硯——	永井櫻舟(183)
(“龍溪硯石”翠岩洞探訪記	
——稀世珍品の發現鍋倉水岩硯)	
鳳來寺石探訪記	吉田永欽(194)
雄勝玄昌石	永井櫻舟(198)
紫雲石	永井櫻舟(202)
和硯分布地圖	(206)
附:中日硯雕(作硯)家一覽表	(207)

圖版

中國名硯作品





